

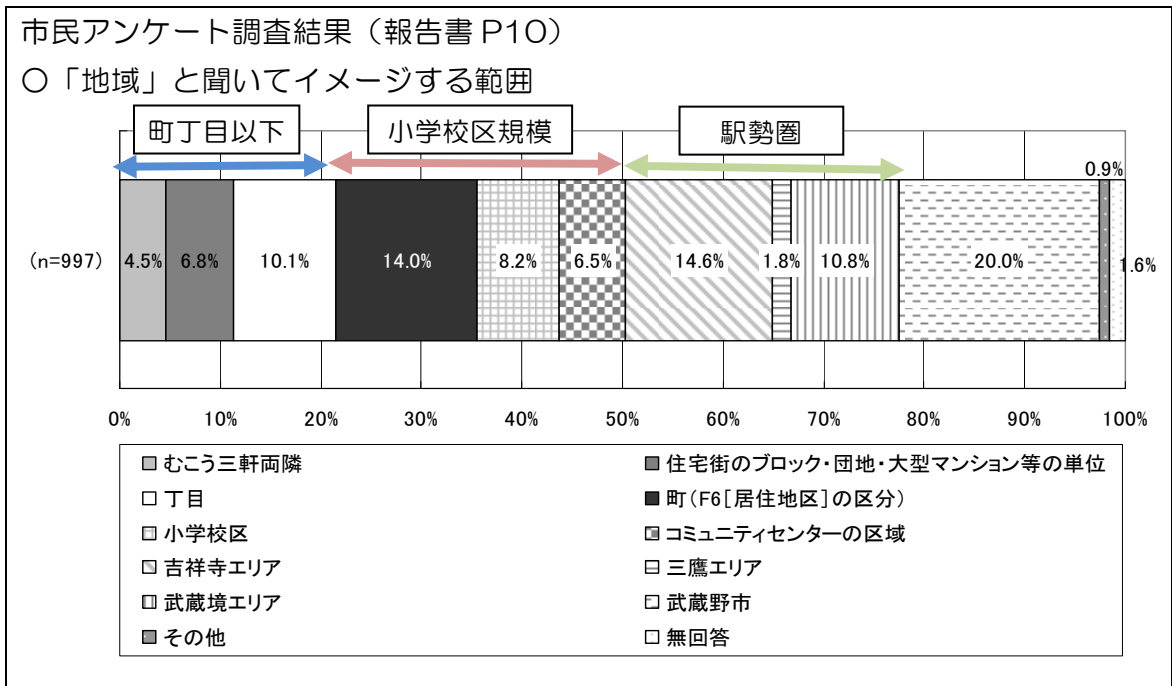
基礎調査から見える武蔵野市のコミュニティの現状と課題

～平成24年度「これからの地域コミュニティと
市民自治の検討のための基礎調査」報告書より～

1 コミュニティの範囲や役割について

■コミュニティの範囲（コミュニティ構想、現状と市民意識の違い）

- ・コミュニティ構想では、小学校区規模の区域を「コミュニティ」の基礎単位として想定し、機械的な「コミュニティ」の区分決定をしていない。
- ・現在、16 コミュニティ協議会が各地域でコミュニティづくりを行っている。この16 コミュニティ協議会の活動区域（＝コミュニティセンターの区域）は全市域を網羅している。
- ・一方で、市民の意識では、必ずしも小学校区やコミュニティセンターの区域が「地域」として共有されているわけではなく、「地域」の範囲は、町丁目以下・小学校区規模・駅勢圏で三分されている。

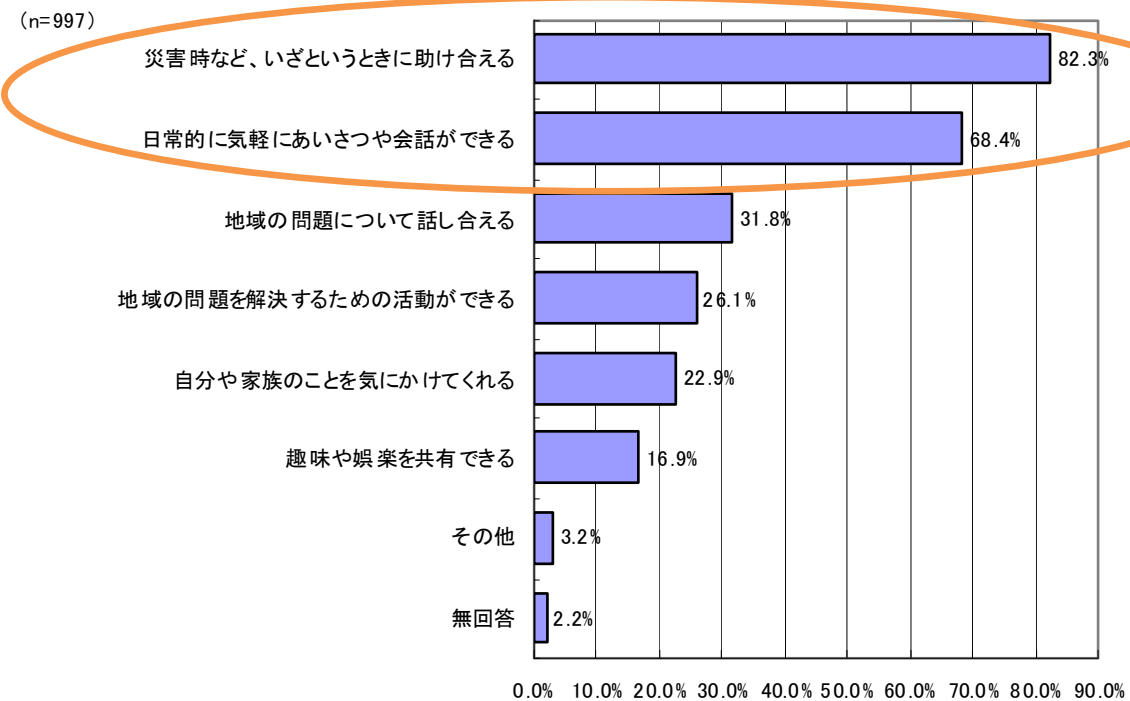


■コミュニティに求める役割（コミュニティ協議会の活動と市民意識の違い）

- ・市民は、「コミュニティ」や「地域」に「つながり」を期待し、具体的には非常時に助け合える関係性や日常的にはゆるやかなつながりを求める声が多い。
- ・現在、コミュニティ協議会は、地域住民のつながりづくりをサポートする様々な取り組みを行っているが、主にイベントの参加者やコミュニティセンターの利用者を対象にしており、特定の目的や意識を持った人同士のつながりを促進するものである。地域全体の誰もが知り合いであり、非常時に助け合える関係性という意味での「コミュニティ」の構築とは異なっている。

市民アンケート調査結果（報告書 P17）

○「地域」をより良くするためにあると良いつながり



市民ワークショップ結果（報告書 P69）

○コミュニティに期待する役割として支持の多かった内容

- ・世代・性別を問わない、参加しやすい環境づくり
- ・世代・職業を超えて地域の人々との交流を深めたい
- ・時代にあった緩やかな近隣関係の構築
- ・年齢・世代を超えて気軽に付き合えるコミュニティ
- ・大人の社会科見学（企業見学）、健康講習会
- ・ホームページ上で地域の行事情報の発信（カレンダー形式）
- ・市民活動団体の対抗戦・発表会
- ・大小の地域グループの連携

2. コミュニティ構想やコミュニティ協議会・コミュニティセンターについて

■コミュニティ構想やコミュニティ協議会の役割や存在（十分理解されていない）

- ・コミュニティ構想では、コミュニティの理念や考え方、施設構成が示されているが、具体的な仕組みや役割は示されていない。また、市民の間でも十分に認知、共有されていない。
- ・コミュニティ協議会についても、コミュニティセンターの窓口業務やイベント以外の具体的な活動をあまり知られていない。地域の中で、コミュニティ協議会は特定の人・団体と近い関係を築きつつも、地域住民全体とつながりが築かれているとはいえない。

グループインタビュー結果

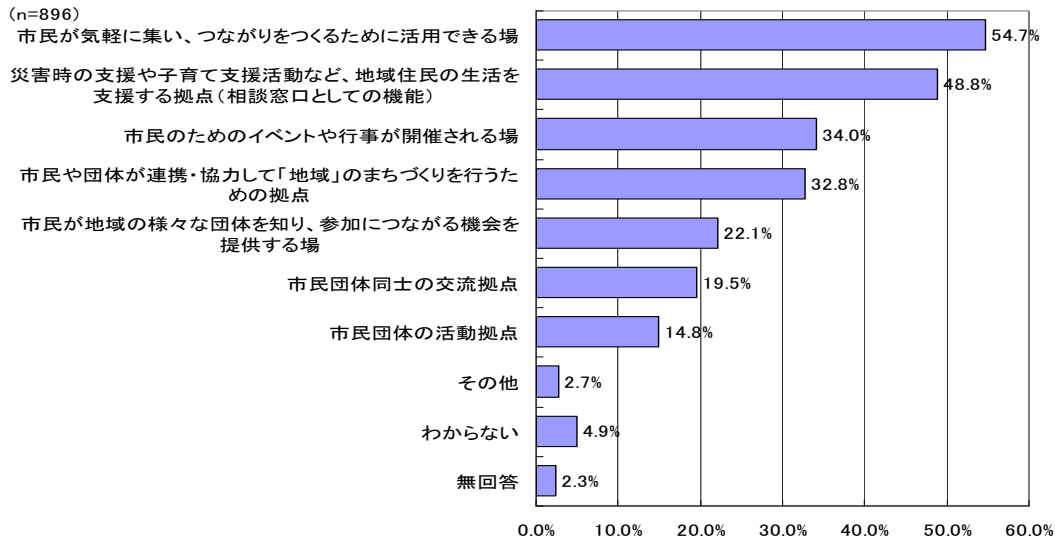
- ・意見交換会では、「コミセンで様々なイベントが開催されていることや貸館業務が行われていることについては認識しているが、コミセンが果たすべき本来の役割が分からなかった」「コミセンには期待しながらも実態を把握していないし、協力もできていないと認識している。」などの意見が寄せられたほか、冒頭で事務局からコミュニティ構想等についての内容を提示すると、「コミュニティ協議会設立時の理念が風化していると思われる。」などの意見が出されている。
- ・グループインタビューを運営する中でも、コミュニティ構想の理念が市民に十分に伝わっていないとの参加者が大勢を占めている。

■コミュニティ協議会・コミュニティセンターの活動に期待される役割（コミュニティ協議会と市民意識の違い）

- ・市民・団体からは、気軽につながることでできる場や活動場所を、コミュニティセンターに求める声が多い。
- ・グループインタビューでは、コミュニティ協議会に対して、地域団体と連携し、災害時の取り組みなど、地域の課題解決のさらなる取り組みを求める声があった。
- ・一方で、コミュニティ協議会は、地域の課題解決のためには、自らが主体的・中心的に活動するという意識ではなく、地域の様々な団体と連携・協力し、団体をサポートする役割を担うべきと考えており、中心的な活動を期待する市民・団体側とのギャップが見られる。

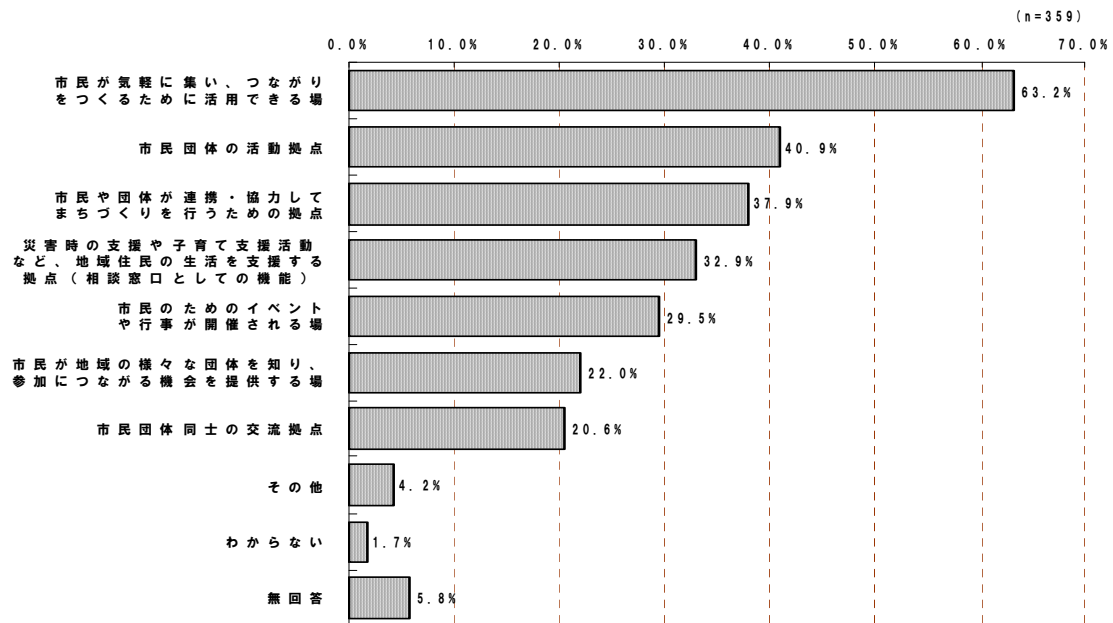
市民アンケート調査結果（報告書 P35）

○今後、コミュニティセンターに求められる役割・機能



団体アンケート調査結果（報告書 P64）

○望ましいと思われるコミュニティセンターの役割・機能



グループインタビュー結果

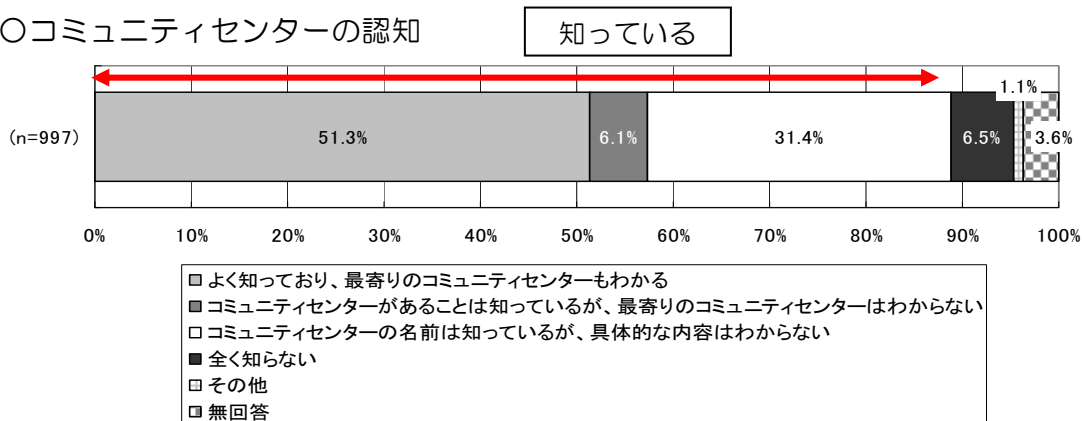
- ・市民や団体からは、コミセンについても、単なる貸し部屋になっていることへの不満感があり、より市民が気軽に集いやすく、つながりづくりのための場にすべきとの意見や、コミセンは市民が気軽に集うことができ、市民・団体が連携・協力してまちづくりを行える拠点であることが望ましいとの意見が出された。
- ・一方でコミュニティ協議会からは、地域の課題を解決するためにコミセンがあるのではなく、すでに課題解決をするための団体がたくさんあるなか、同じ事をする必要はないのではないか、などの意見が出されている。

■コミュニティ協議会の役割（分かりにくさ）

- ・コミュニティセンターの市民の認知は高く、また団体も会議や活動拠点としてコミュニティセンターを利用している。しかし、コミュニティ協議会への関与は一部の市民・団体に限られているため、コミュニティセンターの管理者以外のコミュニティ協議会の役割が認識されにくい。
- ・また、コミュニティ協議会がどのようなコミュニティ活動を行っているかなども知られてなく、コミュニティ協議会が何をする団体なのか、何ができるのかが市民に見えていない。
- ・一方、コミュニティ協議会からも、声に出せない市民ニーズが分からないといった意見が出るなど、市民に対して何をしていくべきなのかが課題となっている。

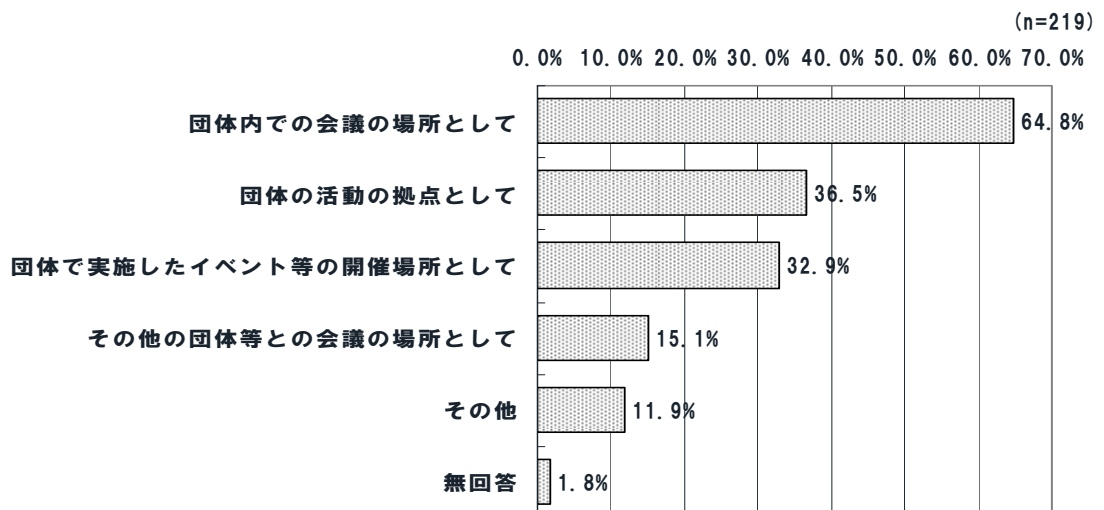
市民アンケート結果（報告書 P33）

○コミュニティセンターの認知



団体アンケート結果（報告書 P61）

○コミュニティセンターの利用内容



グループインタビュー調査結果

- ・市民・団体共に、コミュニティ協議会やコミュニティセンターについては、貸しスペース（とその管理者）としての見方が強い。また、コミュニティ協議会が閉鎖的で関与しにくいとの意見や、取り組み内容について改善が必要との指摘がある。
- ・一方でコミュニティ協議会からは、震災時に親が帰宅できない子どもを保護するなどの

活動も行っているが、実際にそれを広報している訳ではなく、広く市民にこうしたコミュニティ活動が知られているわけではない。また、運営委員の固定化や団体との今後の連携のあり方が課題として上るなど、必ずしも地域との連携は密ではなく、コミュニティセンターは知られていても、コミュニティ協議会の存在が市民に知られていないことや市民が求めていることについて表に出てこない部分に対してどのように対応すべきかについて課題を持っているなどという意見が出された。

■コミュニティ協議会の運営・理念（自主三原則）の抱える課題

- ・コミュニティ協議会の役割が分かりにくくなっていることとも関連するが、コミュニティ協議会への参加者が固定化・高齢化していることは、共通の課題として指摘されている。
- ・市民からは運営に対する団体の参加や市による一定の関与等を求める声も強く、コミュニティ協議会の運営のあり方、自主三原則との整理なども課題となっている。

グループインタビュー結果

- ・市民、団体、コミュニティ協議会のいずれからも、運営委員の高齢化や固定化等は指摘されている。
- ・また、市民や団体のグループインタビューでは、運営について若者が参加しやすい仕組みづくりの必要性や他団体の参加など新しい人材の取り込みが必要との意見等がみられた。

■施設管理者としてのコミュニティ協議会の位置づけ

- ・コミュニティ協議会がコミュニティセンターの管理を行うことで、行政の施設管理負担を軽減し、多くのコミュニティセンターが建設され、多くの市民に利用されている側面がある。
- ・また、対市民の「窓口」対応をコミュニティ協議会（地域住民）が担うことにより、それ自体が地域住民同士のコミュニティにつながっているという側面もある。
- ・一方で、コミュニティ協議会もひとつの市民組織であるにも関わらず、コミュニティセンターの管理者であることが、市民に「特別な」組織であるという誤解を与える要因となっている。それが、他団体との関係性の希薄化や閉塞化につながっている側面もある。

グループインタビュー結果

- ・市民・団体等のグループインタビューでは、「団体や市民の活動を管理している」といった印象を持っているとの意見も見られている。
- ・また、コミュニティ協議会からも、ボランティアではなく、市の職員かそれに準ずる存在として見られていることがあるとの指摘もあった。